

飲み薬の効果や服用方法について、種類別にご紹介します。（当院の院内・院外採用薬のみ掲載）  
飲み薬は大きく分けて8種類あり、状態に合わせて使い分けられています。

### インスリンの効きをよくする薬

#### メトグルコ (メトホルミン)



主に肝臓で、  
糖が作り出される  
のを抑えます。

**通常1日2～3回  
食直前または食後**

※検査等でヨード造影剤を使用する時は、  
原則として検査の2日前から2日後までの間は  
お休みが必要です。（緊急の場合を除く）

### インスリンの効きをよくする薬

#### アクトス (ピオグリタゾン)



筋肉や肝臓での  
インスリンの効き  
目を改善します。

**通常1日1回  
朝食前または  
朝食後**

### インスリンの分泌を促す薬

#### オイグルコン (グリベンクラミド)



#### グリミクロン (グリクラジド)



#### グリミクロンHA (グリクラジド)



#### アマリール (グリメピリド)



すい臓を刺激して、インスリンの分泌を促します。  
空腹時や食後の血糖を改善します。

**通常1日1回～2回  
食前または食後**

### インスリンの分泌を促す薬

#### シュアポスト (レバグリニド)



すい臓を刺激して、  
**速やかに**インスリン  
の分泌を促します。  
食後の高血糖を  
改善します。

**通常1日3回  
毎食直前(10分以内)**

※食事の30分以上前に飲んでしまうと、  
食事開始までの間に低血糖を起こす可能性が  
あるため、必ず直前に飲みましょう。  
(食後に飲むと正しく効果が発揮されません。)

### インスリンの分泌を促す薬

#### リベルサス (セマグルチド)



GLP-1というホルモン  
に似た作用を持ち、  
すい臓からインスリンを  
分泌させます。  
空腹時や食後の  
血糖を改善します。

**通常1日1回  
空腹時**

※1日の最初の飲食の前に  
約120mL以下の水で内服、30分飲食不可

## インスリンの分泌を促す薬

<b>ジャヌビア</b> (シタグリブチン) 	<b>グラクティブ</b> (シタグリブチン) 	<b>ネシーナ</b> (アログリブチン) 	<b>トラゼンタ</b> (リナグリブチン) 	<b>ザファテック</b> (トレラグリブチン) 
<b>エクア</b> (ヒルダグリブチン) 	<b>テネリア</b> (テネリグリブチン) 	<b>オングリザ</b> (サキサグリブチン) 	<b>スイニー</b> (アナグリブチン) 	<b>マリゼブ</b> (オマリグリブチン) 

### 毎日のむタイプ

通常1日1~2回、食前または食後

血糖値の上昇に合わせてインスリンの分泌を促し、  
血糖を上げるホルモンの分泌を抑えます。

### 週1回のむタイプ

週1回 1日1回  
食前または食後

## 糖の吸収をゆっくりにする薬

<b>ベイスン</b> (ボグリボース) 	<b>セイブル</b> (ミグリトール) 
--	--

小腸での炭水化物（糖）の消化や吸収を遅らせて、食後の高血糖を改善します。

通常1日3回、食直前(10分以内)

※低血糖の時は、砂糖ではなく、  
ブドウ糖の補給が必要です。

## 尿中にブドウ糖の排出を促す薬

<b>スーグラ</b> (イブラグリフロジン) 	<b>ジャディアンス</b> (エンバグリフロジン) 	<b>デベルザ</b> (トホグリフロジン) 	<b>フォシーガ</b> (ダバグリフロジン) 	<b>ルセフィ</b> (ルセオグリフロジン) 	<b>カナグル</b> (カナグリフロジン) 
--	--	--	---	--	--

腎臓での糖の再吸収を抑えて、  
血液中の余分な糖を尿から出します。

通常1日1回、朝食前または朝食後

# 配合剤 異なる効き方をする2種類の成分が1つの錠剤になったもの

## イニシク配合錠

**メホルミン**  
インスリンの効きを  
よくなる



**アログリプチン**  
インスリンの分泌を促す



**1日1回 食直前または食後**

※ 検査等で**ヨード造影剤**を使用する時は、原則として**検査の2日前から2日後までの間はお休みが必要**です。(緊急の場合を除く)

## スージャヌ配合錠

**シタグリプチン**  
インスリンの分泌を促す



**イプラグリフロジン**  
尿中にブドウ糖の排出  
を促す



**1日1回 朝食前または朝食後**

## エクメット配合錠HD/LD

**メホルミン**  
インスリンの効きを  
よくなる



**ビルダグリプチン**  
インスリンの分泌を促す



**1日2回 朝、夕**

※ 検査等で**ヨード造影剤**を使用する時は、原則として**検査の2日前から2日後までの間はお休みが必要**です。(緊急の場合を除く)

## カナリア配合錠

**テネリグリプチン**  
インスリンの分泌を促す



**カナグリフロジン**  
尿中にブドウ糖の排出  
を促す



**1日1回 朝食前または朝食後**

## メアナ配合錠HD/LD

**メホルミン**  
インスリンの効きを  
よくなる



**アナグリプチン**  
インスリンの分泌を促す



**1日2回 朝、夕**

※ 検査等で**ヨード造影剤**を使用する時は、原則として**検査の2日前から2日後までの間はお休みが必要**です。(緊急の場合を除く)

## トラディアンス配合錠BP/AP

**リナグリプチン**  
インスリンの分泌を促す



**エンパグリフロジン**  
尿中にブドウ糖の排出  
を促す



**1日1回 朝食前または朝食後**

## 配合剤 異なる働き方をする2種類の成分が1つの錠剤になったもの

### リオベル配合錠HD/LD

アログリプチン  
インスリンの分泌を  
促す



ピオグリタゾン  
インスリンの効きを  
よくする



1日1回 朝食前または朝食後

### グルベス配合錠

ミチグリニド  
インスリンの分泌を  
促す



ボグリボース  
糖の吸収を  
ゆるやかにする



1日3回 毎食直前(10分以内)

※低血糖の時は、砂糖ではなく、  
ブドウ糖の補給が必要です。

- ◇ 糖尿病治療の基本は、食事と運動です。  
生活改善を行うことで、薬の効き目も得られやすくなります。
- ◇ 治療効果が適切に得られるよう、薬は飲み忘れなく正しく服用し、  
上手に血糖値をコントロールしましょう。
- ◇ 飲み忘れた時やシックデイの時に飲み薬をどうするかは、  
薬の種類や患者さんによって対応が異なります。  
事前に主治医の先生に確認しておきましょう。
- ◇ 飲み忘れることが多い、種類が多くて困っている等がありましたら、  
一包化（他の飲み薬と一緒に1回分をまとめること）やお薬カレンダーの  
使用等で改善できます。  
また、状況によっては、お薬の種類や  
飲み方の変更ができる場合もあります。  
ご相談ください。

